

1 学校目標

「考えや思いを進んで伝え合う子の育成」

[重点施策]

- ① 友だちの考えを受け入れる集団作り
- ② 校内研究を核とした授業の推進
- ③ よりよい話し方、聞き方の定着を図るための指導の工夫
- ④ 自分の考えを持つための基本的内容の定着
- ⑤ 教育活動の中で自分の考えを進んで伝え合う体験や機会の設定

2 自己評価、学校関係者評価の実施・公表状況

- ・教員の自己評価を7月と11月に実施した。保護者及び児童に対して学校評価アンケートは11月に実施した。
- ・児童と保護者の学校評価アンケートを集計し、11月に学級担任にその結果（個人の数値・学級の傾向・昨年度との比較）を配付し、これまでの取り組みについて振り返る機会を設けた。
- ・授業参観日や行事参観を実施し、学校関係者評価委員から意見を伺った。1回目には学校経営の方針や学校運営について説明し、2回目の委員会では、学校評価のアンケート結果を説明し意見をいただいた。
- ・学校便りには、自己評価及び保護者アンケートの結果、保護者の主な意見や質問に対しての見解、学校関係者評価委員からの意見を掲載してきた。
- ・年度末参観日に保護者に対して今年度の評価結果及び考察を説明する。

3 自己評価、学校関係者評価の結果

項目	自己評価		学校関係者評価
		児童生徒・保護者アンケート	
重点施策①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が4か3の段階と評価している。様々な場面で友だちの良さを認め合う集団作りに取り組み、支持的な風土やあたたかい雰囲気のある学級作りに努めてきた成果だと言える。どのような些細な困り事や悩み事でも皆で話し合って解決する経験を今後も継続指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4か3の段階を選んだ児童が92%、保護者が90%と大変高い割合であった。自分の考えをしっかりと受け入れてくれるという体験が、逆に友だちの考えをしっかりと受け入れようとする態度の育成に繋がっている。そのため、自分と違う考えであっても、その良さを認めようとする雰囲気が広がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参観日の授業などを参観しても先生方の授業の内容は非常にすばらしく、話し合い活動でも様々な工夫が図られている。柔軟に友だちの考えを受け入れ、よりよい自分の考えを持てるよう今後も指導を継続してほしい。</li> </ul>
重点施策②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4か3の段階と評価した教職員が87%と高い割合であった。放課後の教材研究の時間が確保できるようになり、教材作りにも細かな配慮が見られるようになってきた。また、書いたものを伝え合う活動やコミュニケーション活動を効果的に設定するなど、工夫された授業作りに繋がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4か3の段階を選んだ児童が93%、保護者が96%と大変高い割合であった。児童は自分の考えを自分の言葉で伝えられるようになってきており、様々な場面で保護者もこの変容を感じているようである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研の取り組みを核にして、学校全体で授業の改善を図る取り組みが大変すばらしい。児童も授業が楽しく、待ち遠しいのではないかな。確実に学力が向上しているのも、校内研への確かな取り組みの成果と考えられる。</li> </ul>
重点施策③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が3の段階と評価しており高い割合であった。校内研究の授業や日常の授業において話す・聞くの大事なポイントを押さえたり、発表の話型指導を行ったりした成果と考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4か3の段階を選んだ児童が86%、保護者が83%と高い割合であった。以前よりも話し方や聞き方が良くなったと感じている児童、保護者が多くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自分の考えをしっかりと発表している姿が多く見られるようになってきている。また、全体的に目を見てしっかりと話を聞ける子は受け答えが良いように感じる。学校で培った話し方、聞き方の指導が家庭に帰ってから継続してできるよう連携を図ってもらいたい。</li> </ul>
重点施策④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が4か3の段階と評価している。児童1人ひとりが自分の考えをしっかりと持つよう、考え方の素地を持たせる工夫が授業の展開の中に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4か3の段階を選んだ児童が91%、保護者が80%と高い割合であった。しかし、保護者で2の段階を選んだ割合が20%とやや高かった。こ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中に「書く活動」を取り入れ、それを基に「自分の考え」をしっかりと持たせる取り組みが大変良い。普段あまり自分の考えを持ってない児童</li> </ul>

	見られる。また、基本的内容の定着を図るために、日常的なノート指導、小テスト、学級担任とTT加配教員によるチームティーチング、放課後の補充指導など、きめ細やかな指導にも取り組んでいる。	れまでも授業参観の他にも、学級通信や学校便り、ブログなどで、児童の考えを学校から家庭や地域へ発信してきたが、今後も、様々な形で情報発信していく必要がある。	に対しても、教師側でその子に合った指導を実践すると様々な考えを持つことができる。以前より多くの発表場面が見られるなど、授業内容などに変化が見られるようになってきている。
重点施策⑤	・4か3の段階と評価した教職員が89%と高い割合であった。今後も、活動内容を工夫し、伝え合う活動とは、児童がどのようなことを、どの程度練り上げていくことなのかを明らかにし、校内研を核とした研究を進めていく。	・4か3の段階と評価した保護者が90%と非常に高い割合であった。児童も75%と高い割合であったが、2の段階と評価した児童が23%と多かった。伝え合う活動に抵抗を持っている児童がいることも考えられる。今後は、自分の考えを伝え合う場面を計画的に設定し、より一層、児童に伝え合うことの楽しさを体験させていく必要がある。	・参観日や学校行事などで、子どもたちが意欲的に発表している場面が多く見られるようになった。指名されても自分の意見をうまく言えない児童は減少しているように感じる。自分から積極的に自分の考えを伝えようとする良い傾向が感じられる。「友だちのよさを認め合う集団作り」が学力面にも良い影響を及ぼしている。

#### 4 学校目標に係る成果、課題及び改善方策

<p>・今年度は、学校目標を「考えや思いを進んで伝え合う子の育成」と設定し、学級集団の向上を基礎として、校内研修を核とした授業実践に取り組み児童の育成を図ってきた。また、中学校区一貫指導項目からは、①気持ちのよい返事や挨拶ができる〔項目(1)〕 ②家庭学習ができる〔項目(6)〕 ③目標を持ち、ねばり強く努力することができる〔項目(8)〕 を重点事項として取り組んできた。</p> <p>[成果と課題について]</p> <p>・学校目標に関わっては、教職員も指導方法を工夫して取り組み、成果が上がったと言える。児童が自分の考えや思いを表現することに対し自信が増し、進んで自分の考えを発表できるようになってきている。学校評価のアンケート結果から考察すると、教職員の評価が昨年度よりもかなり向上しているものが多い。学校生活において児童が様々な面で成長していることに基づいて判断していると考えられる。しかし、教職員・児童・保護者の三者で認識にずれが生じているものがある。学校側がめざす児童の姿をしっかりと保護者にも示し、規準を明確にして日々取り組んでいかなければならないと感じている。</p> <p>[改善点について]</p> <p>・学校目標の達成を目指し、教職員が共通理解を図りながら取り組み、学期ごとに評価し、すばやく改善を加えながら取り組んでいきたいと考えている。良い集団の中で児童が安心して学校生活を送れるよう、児童の内面的な充実を随時確認することが必須である。また、様々な場面で教職員と保護者が共通理解できるよう働きかけ、学期ごとに結果を示し、情報を伝えながら協力して日々取り組んでいきたい。</p>
---

#### 5 8Dプラン重点項目に係る結果及び考察

項目	アンケートの結果	アンケートの考察
(1)返事挨拶	・十分当てはまる、おおむね当てはまるを合わせると、「挨拶がよくできている」と感じている教職員は67%であった。保護者の71%、児童の82%も「挨拶がよくできている」と捉えている。教職員・保護者と児童の挨拶に対する捉え方に違いが見られた。	・昨年度より保護者の評価が少し低くなった。学校での挨拶運動、来校者への挨拶などは良いが、家庭や地域における日常的な挨拶が課題なのではないかと考えられる。今後は、学校での挨拶習慣を家庭や地域でも実践できるよう、具体的な方策を検討していきたい。
(6)家庭学習	・十分当てはまる、おおむね当てはまるを合わせると、教職員は86%、児童は83%であった。しかし、保護者は70%と評価があまり高くなかった。児童・教職員と保護者の家庭学習に対する捉え方に違いが見られた。	・各学級で家庭学習のコンテストや優れた家庭学習を紹介する取り組みを行っているため、家庭学習の内容が向上し多くの工夫が見られるようになった。しかし、多くの児童が放課後、スポーツ少年団活動開始前の時間帯に学校で家庭学習を終わらせていることが多い。このことが家庭学習の取り組みに対する保護者の評価の低さに繋がっていると考えられる。
(8)粘り強さ	・十分当てはまる、おおむね当てはまるを合わせると、児童は83%、教職員は63%、保護者は46%と、三者の評価に違いが生じている。特に2の段階を選んだ割合が、保護者は42%、教職員は37%と評価が低かった。	・児童は学習や生活で目標を設定して粘り強く努力していると考えているようだが保護者や教職員はまだ努力が足りないと感じている。今後はどのようなことに対する粘り強さを重要視するかを明確にしその力を高めるための手立てや方策について検討していく必要がある。